

【特集】「福島県における食物アレルギー対応の取り組み」

“念のため”除去よりも、アレルギー専門医療機関を受診して、正しい理解を

食物アレルギーは年齢と関係ある？

会津支部

一般財団法人竹田健康財団
竹田綜合病院 栄養科

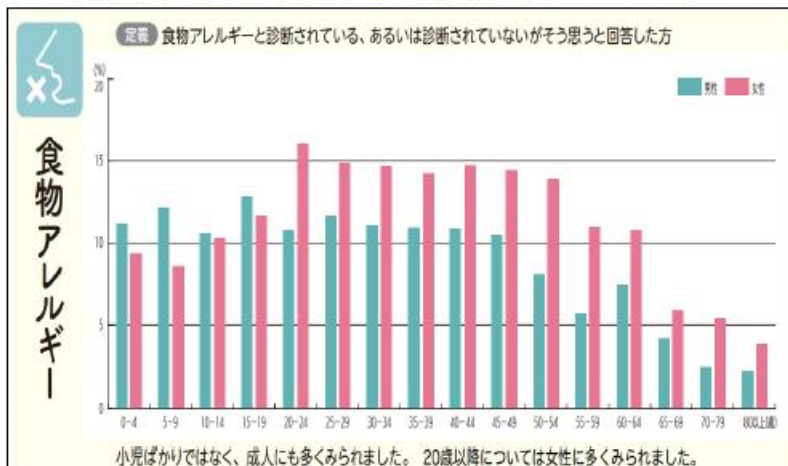
黒岩 敏（医療職域協議会）

2022 年度（公財）日本学校保健会において、全国の公立の小中高校、特別支援学校、義務教育学校、中等教育学校を対象とした「令和 4 年度アレルギー疾患に関する調査」が 9 年ぶりに実施されました。それによると食物アレルギーがある児童生徒は 2013 年度調査では 40 万 7546 人（回答校の児童生徒の 2.6%）であったのに対し、2022 年度は 52 万 6705 人（同 6.3%）と増加傾向にあることがわかりました。皆さんは食物アレルギーというと「子供に多い」というイメージはないでしょうか。実際に、消費者庁「令和 3 年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書・即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査」によると、“食物を摂取後 60 分以内に何らかの反応を認め、医療機関を受診した患者”の年齢は、18 歳までの患者が 94.7%を占める結果となりました。比較的若い年齢層に多いことがわかりますね。しかし一方ではこのような調査結果もあります。アレルギー疾患拠点病院の職員と、その家族を対象とした「2022 年度アレルギー疾患に関するアンケート調査」で、「食物アレルギーと診断されている、あるいは診断されていないがそう思う」と回答された方は、子供だけではなく大人でも多くみられました【図 1】。これは大人になると、診断はされていないが症状としてはアレルギーじゃないかと自分で判断できることが、結果として反映されているものと思われます。逆をいうと、本当に症状がアレルギーによるものか分からない、という見方もできます。

私が勤務する病院では、食事をされる患者さんおよそ 500 名のうち、7%の患者さんが何かしらの食物アレルギーをもっています。そういった患者さんに対しては調理から配膳されるまで、何度も何度も対象の食品が含まれていないかチェックをしています【写真 1】。おそらく給食を提供している施設は、同じような対応をされていることでしょう。しかしながら、患者さんの訴えの中には「子供の頃に食べたら湿疹が出て、それ以来食べないようにしている」や、「何が原因か分からないけど、かゆみが出たからその料理に入っていた食品は食べないようにしている」といった“念のため”というケースもあります。この背景には大人が自分の食物アレルギーは何なのか、診断を受けるための手段が知られていないことが考えられます。これら対応としては、症状に対してアレルギー専門医がいる医療機関を受診すると、診断を受けることができます。アレルギーに関する情報サイト「アレルギーポータル」では、常に最新の情報が更新されており、各都道府県別に日本アレルギー学会専門医・指導医の一覧も検索できます。福島県でも約 50 件の医療機関があるので、自分の症状が何によるものなのか、今は大丈夫なのか、判断がつかない場合はぜひご相談ください。自分自身のアレルギー情報を正しく理解し、不要な制限はせずに食事を楽しみましょう。



【写真 1】アレルギーチェックの様子
栄養ふくしま 69 号 令和 6 年 2 月 1 日（2）



- アレルギーポータル
アレルギーに関する様々な情報を集めたポータルサイトです。
アレルギーの症状、治療方法や相談できる専門医や
災害時の対応方法の情報等が集約されています。
- <https://allergyportal.jp/>

